

## エルジャジダ滞在記

2017年12月14日

エルジャジダに住み始めて1か月が経った。この間アパートを決め、公安警察に滞在許可書の発行を依頼した。外国人の滞在を規制しているのではと思いたくなるほど、書類要求があったので、個人で警察に申請するのは結構大変だった。

まずは、今のエルジャジダとはどのような所か書いてみた。



この町は、1514年にポルトガルがインドに向かう船の寄港地として、城砦を築いたのが始まりで、マザガンという名前と呼ばれていた。この城塞の水を確保するため、地下貯水池を作ったが、これが2004年に世界遺産に登録された。ここは元々倉庫(弾薬庫)だったものを、16世紀に貯水池に変えられた。アーチ状の太い柱6本と円柱6本で支えられており、水に映った天井からの明かりの醸し出す雰囲気はすばらしく、数々の映画などに使われている。1769年にスルタン/モハメッド・ベン・アブデラによって、ポルトガルは追い出され“新しい街”という名前”エルジャジダ“に替わった。



世界遺産になっている貯水池



ポルトガルが作った灯台

エルジャジダの旧市街地メジナは、狭い路地に商店が軒を並べるラバトやマラケッシュなどと違い、車の通れる広い道が区画を作っているため、わかりやすく歩き易い。ここは、夏の保養地としてマラケッシュなどから人が集まり、海岸通りは人と車で溢れる。冬は遠浅の海岸で何組もサッカーをしている。

北に向けた海岸線は、20 km位続いておりどこでも泳げるし、サーフィンもやっている。この海岸沿いに、遊園地、ホテル、ゴルフ場が、ぽつりぽつりとある。



現在、エルジャジダと近郊の街シディブジでは、5階建てのアパート群があちこちに建築中で、街には建設が終わった建物に“売ります”という広告がそこら中にある。開発業者が、アパート群を建設しており、買い手は資金を銀行でローンを組んで借りている。アパートを自分たちが住むためではなく、資産として持って、それを貸してローンを返すような仕組みで多くのアパートが建てられている。中国のような高層マンション群ではないが、こんなに建物を建てて、大丈夫なのかと思ってしまう。買い手は、カサブランカ、ラバトの人が多く、別荘として使っている人もいる。



これだけ建物が建設されるのは、その建築資金があって、購入する人もいるということになる。モロッコ経済は、潤沢な資金で回っている。驚いたのは、アパートの屋上にある衛星放送のアンテナの数。



アパートの屋上には、無数のパラボラアンテナが設置されている。アパートの住人がそれぞれに契約するのでこうになってしまうようだが、屋上の一画がアンテナで占領されている。さらに驚くのは、1000あるチャンネルの半分が使われており、その90%がアラビア語放送であること。サウジアラビア、アルジャジダ、イラン、エジプトの国々の放送。また、英語、フランス語放送の映画は、字幕にアラビア語が出てくる。改めてアラブ世界の発展していることを感じさせられた。しかし、カフェのテレビは殆んどがサッカー。皆、良くサッカーを見て歓声をあげている。